

今年度も二宮町幼稚園・保育園・こども園・小学校研修会開催される

8月18日(火)に二宮町民センターにおいて、二宮町幼稚園・保育園・こども園・小学校研修会が開催されました。今年度は56名の先生方が参加しました。最初に神奈川県架け橋センターの杉山孝史コーディネーターから、(1)最近の国の動き、(2)架け橋プログラムとは、(3)架け橋期の取組を進める、(4)まとめの4つについて講話がありました。子どもが楽しい(嬉しい)と感じる時とは、「わかる」「できる」「感じる」「関わる」の4つがあり、子どもの声を聞き、子どもの姿を見ながらなど、子どもを真ん中に置いたカリキュラムづくりが大切であるというお話が印象に残りました。園と学校が連携する重要性を再確認する機会となりました。

その後、東海大学(児童教育学科)教授の實来生志子先生から「子どもの学びや育ちの連続性を大切にスタートカリキュラム」をテーマにご講演とグループ協議を行いました。實来先生は、動画とスライドを活用し、「小学校1年生は赤ちゃんではない。幼稚園ではしっかりと年長を務めていた。」「教師が決めるのではなく、子どもの考えをまず聞いてみるのが大切。」「どれだけ子どもの立場に立てるか。」といった発想の転換を図る必要があることを熱く語ってくれました。グループ協議では、参加された先生方が、實来先生の紹介された小学校1年生の参考VTRをもとに、それぞれの立場から本音でざっくばらんに、楽しそうに語り合っている姿がとても印象的でした。

研修後のアンケートでは、それぞれの職種の先生方から、日々の教育活動を振り返る具体的で深みのある言葉が多く寄せられました。小学校の先生方からは、これまでの授業スタイルを見つめ直す声が多く挙がりました。ある先生は「これまではルールを伝えることを優先しがちだったが、子どもの『やってみたい』というワクワク感や疑問に寄り添うことの大切さを実感した」と振り返っていました。また別の先生からは「子どもの疑問を大人がすぐ解決するのではなく、子ども同士で考えて行動するチャンスを奪わないようにしたい」といった、2学期からの実践に向けた前向きな決意が語られました。

園の先生方からは、「子どもたちの『なぜ?』『どうして?』という問いを丁寧に拾い上げ、一緒に考えることを心がけたい」という声や、「幼児期での主体的な学びが、小学校での教科学習や生きる力にどうつながっていくのかを改めて実感できた」といった感想が寄せられました。さらに、中学校の先生からは「中学生になると間違いを恐れて疑問を口にできない生徒もいる。小学校1年生のように素直に疑問を表現できる環境づくりを意識したい」という意見があり、小中ギャップへの気づきや、幼保こ・小・中とつながる長期的・発達段階に応じた指導の必要性を共有する場となりました。また、園・学校間だけでなく「保護者への発信と理解」も重要な課題であることや、町全体でスタートカリキュラムマインドを共有していくことの価値が改めて確認されました。

今回の研修会は、現在二宮町が大切にしている「こどもまんなか」の理念に通じるものがあります。今後も、子どもたちが主体的に学び、成長していけるよう、この「架け橋期」の取組と幼保こ小の連携をいっそう推進してまいります。…すべては「にのみや学園の子どもたち」のために…



感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

